



写真:ミヤマキリシマの蜜を吸うジャコウアゲハ (撮影:平成28年5月17日)

「ジャコウアゲハ」

甘い香り ツツジとの共演

5月中旬から6月上旬にかけてミヤマキリシマが霧島を美しい紫色に染めていきます。花が咲いてうれしいのは人間だけではなく、チョウの仲間もツツジの花が大好き。蜜を吸っている時は夢中になっているので、じっくりと観察することができます。

ジャコウアゲハもその一員。大浪池、甕岳の山頂でよく見られます。黒地に赤い紋が入った羽、胴体も赤いためよく目立ちます。派手な色をしているので野鳥などの餌食になると思われませんが、ジャコウアゲハは、体内に毒を持っているため襲われる心配はあまりありません。幼虫の時にオオバウマノスズクサという有毒植物の葉を食べ体内に蓄えます。派手な色をしているのは「私は毒を持っています」というアピールのようです。

ジャコウアゲハのオスは捕まえるとおもしろいことに気付きます。なんと甘い香りがします。それがジャコウという名前の由来。この香りでメスを呼びよせるのですが、とてもオシャレな方法ですね。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous* チョウ目アゲハチョウ科